

新潟国際情報大学
経営情報学部 / 情報文化学部

2020

管理会計論 / 管理会計

予習ノート ～前編～

山下功 [担当・著]

学籍番号 _____ 氏名 _____



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

MA-Y1-20201117

目次

●授業の概要

第1講	管理会計とは.....	前編 3
-----	-------------	------

●業績評価会計

第2講	標準原価計算と原価統制(1).....	前編 4
第3講	標準原価計算と原価統制(2).....	前編 6
第4講	直接原価計算とCVP分析(1).....	前編 8
第5講	直接原価計算とCVP分析(2).....	前編 10
第6講	予算管理と短期利益計画.....	前編 12
第7講	事業部制と責任会計.....	前編 14
第8講	前半のまとめ.....	未収録

●意思決定会計

第9講	個別計画意思決定(1).....	後編 3
第10講	個別計画意思決定(2).....	後編 4
第11講	設備投資意思決定(1).....	後編 5
第12講	設備投資意思決定(2).....	後編 7

●まとめ

第13講	経営情報システムと会計.....	後編 9
第14講	後半のまとめ.....	未収録
第15講	管理会計の実務.....	未収録
空欄部分	の解答.....	前編 16, 後編 12

第1講 管理会計とは

1.1 管理会計とは

管理会計は「^[1]_____会計」である。

財務会計は^[2]_____報告目的、管理会計は^[3]_____報告目的。

1.2 「管理会計」という呼び方について

「管理会計」は「^[4]_____会計」と呼ばれるようになるかもしれない。

1.3 会計情報の役割

3つの役割: ^[5]_____, ^[6]_____, ^[7]_____

お金だけではなく、^[8]_____も人を動かすことがある。

1.4 会計の基本公式

1. 数量 × 単価 = 金額(または総額)

2. 期首残高 + 期中増加 - 期中減少 = 期末残高

3. ^[9]_____ - 費用 = ^[10]_____

1.5 財務会計と管理会計の違い

財務会計は^[11]_____報告目的、管理会計は^[12]_____報告目的。

「企業の目標」は様々であるが、究極的には^[13]_____を獲得することである。

1.6 管理会計の2分類

^[15]_____会計と^[16]_____会計

第2講 標準原価計算と原価統制(1)

2.1 原価の分類

2.1.1 形態別分類

[1] _____ 費、 [2] _____ 費、 [3] _____ 費

2.1.2 製品との関連における分類

[4] _____ 費、 [5] _____ 費

前項の形態別分類と組み合わせると、次のようになる。

[6] _____ 費、 [7] _____ 費、 [8] _____ 費
[9] _____ 費、 [10] _____ 費、 [11] _____ 費

2.1.3 その他の分類

活動量の変化に基づく分類については、第4講を参照。

2.2 標準原価計算とは

事前に原価の^[12] _____ (これを『^[13] _____』という)を設定し、^[14] _____ と比較することによって原価を管理・統制すること

2.3 標準原価計算の目的

『^[15] _____』における、標準原価計算の目的は、以下の通りである。

1. 原価管理を^[16] _____ 的にするための原価の標準として標準原価を設定する。
2. 製品、仕掛品等の棚卸資産(在庫)価額および^[17] _____ の算定の基礎となる。
3. ^[18] _____ とくに見積財務諸表の作成に、信頼しうる基礎を提供する。
4. 標準原価を勘定組織の中に組み入れることによって、記帳を^[19] _____ 化し、^[20] _____ 化する。

2.4 原価標準と標準原価の違い

原価標準: 製品^[21] _____ 単位当たりの製造に必要な原価のこと。
^[22] _____ 原価。

標準原価: ある期間における原価の^[23] _____ 額のことである。

2.5 標準原価計算の手続 →教科書を参照

2.6 原価標準の設定方法

1. 金額データと^[24] _____ データの両方を使う

2. ^[25] _____ な値を目標値として

設定する。→^[26] _____ 標準

3. 4. →教科書を参照

2.7 標準の種類 (代表的なものを3つ)

^[27] _____ 標準、^[28] _____ 標準、^[29] _____ 標準

2.8 標準原価計算における原価の分類

^[30] _____、^[31] _____、

^[32] _____

2.9 原価標準の設定例 →教科書を参照

2.10 標準原価の算定 →教科書を参照

第3講 標準原価計算と原価統制(2)

3.1 標準原価差異の算定

$$\text{原価差異} = \text{[1] 標準原価} - \text{[2] 実際原価}$$

$$\text{原価差異} > 0$$

$$\Leftrightarrow \text{標準原価} > \text{実際原価} \Leftrightarrow \text{[3] 有利差異(貸方差異)} \Leftrightarrow \text{F}$$

$$\text{原価差異} < 0$$

$$\Leftrightarrow \text{標準原価} < \text{実際原価} \Leftrightarrow \text{[4] 不利差異(借方差異)} \Leftrightarrow \text{U}$$

3.2 標準原価差異の例題 →教科書を参照

3.3 標準原価差異と3つの差異: (A)~(D) →教科書を参照

3.4 直接材料費差異の内訳: (E),(F)

直接材料費差異は、^[5] 価格差異と^[6] 数量差異に分けられる。公式を覚えるのではなく、^[7] 数量差異をして解く。

3.5 直接労務費差異の内訳: (G),(H)

直接労務費差異は、^[8] 賃率差異と^[9] 数量差異に分けられる。

直接労務費差異と直接労務費の計算の構造は^[10] 類似である。

価格差異と賃率差異は共に^[11] 有利差異であり、

数量差異と作業時間差異は共に^[12] 不利差異である。

差異は金額であるから、単価と数量の^[13] 数量差異で求められる。

3.6 標準原価差異の原因分析

3.6.1 例外管理

標準原価計算で最も重要なことは、求めた差異を分析し、差異の原因を解明し、それを^[14] 改善に活かすことである。

→図表 3.3

また、許容範囲から外れたものだけを分析対象とする

(^[15]_____を考慮)。

このような管理方法を、「^[16]_____」という。

3.6.2 管理可能性

^[17]_____な原因と、^[18]_____な原因に分けて分析する。なお、企業のどの階層を基準にするかによって、管理可能な範囲が変化する。

3.6.3 分析結果の原価報告

製造部門の管理者は報告書を原価計算担当部門に提出する。

企業では、分析結果に一喜一憂するだけでなく、

それを^[19]_____に活かしていかなければならない。

3.6.4 標準原価の再検討

差異を分析した結果、原価標準や標準原価の^[20]_____に問題があるならば、改定を行う。

第4講 直接原価計算とCVP分析(1)

4.1 活動量とは

経営活動の量のことである。「営業量」または「^[1]_____」という用語を使うこともある。

4.2 活動量(または営業量、操業度)の変化に基づく原価の分類: 変動費と固定費

4.2.1 原価態様の4類型

活動量の変化に応じて原価がどのように反応するかを、^[2]_____という。^[3]_____費、^[4]_____費、^[5]_____費、^[6]_____費

4.2.2 原価態様の式とグラフ →教科書を参照

4.2.3 活動量と原価の関係

4.2.1で、変動費は活動量に^[7]_____し、固定費は^[8]_____しないと述べた。

ここで、単位原価に注目してみると、活動量1単位当たりの変動費は活動量が増減しても^[9]_____しない。また、活動量1単位当たりの固定費は活動量に^[10]_____する(図表4.5)。また、同じ事象であっても、活動量を何にするかによって原価態様は^[11]_____。

4.2.4 正常操業圏

通常の経営活動で想定される活動量の範囲を^[12]_____という。範囲を限定することによって、原価態様を^[13]_____している。

4.3 変動費と固定費の分類方法

原価を変動費と固定費に分類することを「^[14]_____」という。

4.4 直接原価計算

直接原価計算とは、原価を^[15]_____費と^[16]_____費に分けて

計算する方法である(原価を^[17]_____費と^[18]_____費に分けるのではない)。

最初に、売上高から変動費を引いて、^[19]_____を求める。次に、限界利益から固定費を引いて、営業利益を求める。直接原価計算は財務会計では^[20]_____が、経営(特に短期利益計画)に活かしていくことに意義がある。

4.5 CVP 分析の概要

4.5.1 CVP 分析とは

利益が零のときの活動量と売上高(=原価)の組み合わせのことを^[21]_____という。また、損益分岐点に関する一連の分析のことを^[22]_____分析といい、正確には^[23]_____分析という。この分析を行う場合、^[24]_____が活動量の増減に比例して変化することが前提となる。

4.5.2 限界利益の重要性

限界利益は^[25]_____と比例する。

4.5.3 損益分岐点の計算例

図表 4.9 と 4.10 は縦軸が金額であるので、利益や損失は^[26]_____で表される(^[27]_____ではない)。また、図表 4.10 において、損益分岐点より左では^[28]_____になり、損益分岐点より右では^[29]_____になる。

4.5.4 限界利益率の利用

前項では販売数量を先に求めたが、^[30]_____を利用することによって、売上高を直接求めることができる。

4.6 変動費率と固定費率の 2 つの意味 →教科書を参照

第5講 直接原価計算とCVP分析(2)

5.1 本講の事例について →教科書を参照

5.2 自動販売機 A: 缶 →教科書を参照

5.3 自動販売機 B: 紙コップ →教科書を参照

5.4 自動販売機の事例の考察

5.4.1 2台の自動販売機の比較 →教科書を参照

5.4.2 原価態様がリスクとリターンに与える影響

自動販売機 A のように、^[1] _____ (固定費の割合が
^[2] _____ て、限界利益率も^[3] _____) の原価態様の場合は、
^[4] _____ である。

自動販売機 B のように、^[5] _____ (固定費の割合が
^[6] _____ て、限界利益率も^[7] _____) の原価態様の場合は、
^[8] _____ である。

5.4.3 値下げ競争への耐性

1個当たり変動費が低い自動販売機 B は、^[9] _____
に強い。

販売価格が限界費用(=1個当たり変動費)と同額であれば、何個販売
しても常に^[10] _____ と同額の損失が発生する。

5.5 CVP分析における売上高と原価と利益の関係

売上高が n % 減少した場合、原価の減少率は n % より
^[11] _____、利益の減少率は n % より^[12] _____。

売上高が n % 増加した場合、原価の増加率は n % より
^[13] _____、利益の増加率は n % より^[14] _____。

5.6 損益分岐点比率と安全余裕率

損益分岐点比率 + 安全余裕率 = ^[15] _____

損益分岐点比率と安全余裕率は図示をして解く。板書を参照。

5.7 CVP 分析の原価低減への利用

変動費と固定費を低減することによって^[16] _____

を下げ、より多くの利益を得ることができる。

なお、CVP 分析の計算問題で個数に小数点以下の端数が出た場合は、

^[17] _____ (^[18] _____ ではない)。

第6講 予算管理と短期利益計画

6.1 予算とは

企業の^[1]_____を金額によって示したもの。

6.2 予算における会計期間

6.2.1 短期、中期、長期

^[2]_____年以内の期間のことを短期と呼び、それを超える期間のことを長期と呼ぶ。また、管理会計における中期と長期の違いは、現在と比べて^[3]_____に大きな変化が起こると予想されるか否かである。

6.2.2 ローリング予算

予算期間の^[4]_____で、予算を定期的に更新すること。

6.3 予算の機能

6.3.1 予算の基本的機能 →^[5]_____と^[6]_____

前者は^[7]_____に行う。

後者は^[8]_____あるいは^[9]_____的。

6.3.2 予算の機能の例 →教科書を参照

6.4 予算編成の手順 →教科書を参照

全社的な予算は、^[10]_____と呼ばれる。

このような手順での予算編成には^[11]_____を要する。

6.5 予算の問題点

6.5.1 予算スラック

責任部門で^[12]_____を持って予算を設定すること。

予算編成部門が予算スラックを見抜けないことがある。これは、情報の^[13]_____の一種である。

6.5.2 予算ゲーム

「売上高予算は^[14]_____、費用予算は^[15]_____」し
ようとする^[16]_____のこと。

6.5.3 費用予算の期末消化

期末が近づくと費用予算額の^[17]_____まで使い切ろうとする動
機が生まれる。

→「費用予算を^[18]_____する」という動機が損なわれる

6.5.4 企業活動の断絶

「^[19]_____までに予算を達成する」という動機付けがなされるとき、
予算の会計期間ごとに企業活動が^[20]_____してしまう虞がある。

6.6 予算の問題点の解決

6.6.1 業績評価の仕組みの改善

多面的な尺度による評価(^[21]_____)が有効である。

6.6.2 ゼロベース予算 (ZBB: zero-base budgeting)

通常の前算編成では過去の実績を基準とする(^[22]_____
前算)。それに対して、ゼロベース前算では過去のことを一旦^[23]_____
にする。

6.6.3 バランス・スコアカード (BSC: balanced scorecard)

^[24]_____を重視しがちな従来型の業績評価制度の欠点を
克服する手法。または^[25]_____を発展させたもの。

6.6.4 前算不要論

「前算の問題点を解決するためには、前算を^[26]_____」
という考え方のこと。

第7講 事業部制と責任会計

7.1 事業部制と責任会計の概要

企業の営利活動の区分を分割し、社長よりも低位の階層の経営管理者に^[1]_____と^[2]_____を^[3]_____した組織制度のこと。責任・権限と結びついた会計システムのことを「^[4]_____」と呼ぶ。

7.2 責任中心点の類型: ^[5]_____中心点、^[6]_____中心点、^[7]_____中心点、^[8]_____中心点、^[9]_____中心点

7.3 職能制組織と事業部制組織

7.3.1 職能制組織の特徴 →教科書を参照

7.3.2 事業部制組織の特徴

1921年に^[10]_____社によって初めて適用された。最初に製品別、地域別、市場別などの^[11]_____に区分される。

7.4 日本の事業部制組織

^[12]_____別事業部制が最も多い。

7.5 事業部制に類似する組織

7.5.1 純粹持株会社

持株会社とは、他の会社を^[13]_____するために、その^[14]_____を持つことを目的とする会社のことである。

7.5.2 分社制

「^[15]_____経営」や「^[16]_____経営」などと呼ばれる。

7.5.3 社内カンパニー制

事業部制よりも^[17]_____を進めたもの。日本独特の組織形態。社内カンパニー制の2つの側面: ^[18]_____の代替的組織、米国式の^[19]_____な事業部制組織

7.6 事業部制の長所と短所 →教科書を参照

7.7 内部振替価格

事業部間などの社内売買のことを^[20]_____といい、
その際に用いられる価格を^[21]_____という。

7.8 事業部の業績評価

7.8.1 事業部損益計算書

利益額で評価する場合、事業部の評価は^[22]_____利益で行う。それに対して、事業部長の評価は^[23]_____利益で行う。

7.8.2 売上高利益率 (ROS: return on sales)

^[24]_____に対する^[25]_____の割合によって業績を評価する。

7.8.3 投資利益率 (ROI: return on investment)

^[26]_____に対する^[27]_____の割合によって業績を評価する。

7.8.4 残余利益 (RI: residual income)

投資利益率を使った場合、投資額を^[28]_____する力が働いてしまう。そこで、^[29]_____と^[30]_____の両方を評価するための指標として、残余利益が開発された。

^[31]_____は、調達した資金の利率を平均したものであり、通常は加重平均資本コスト率(^[32]_____)を用いる。なお、残余利益の一種に、経済的付加価値(^[33]_____)がある。

空欄部分の解答

第1講

[1]経営に役立つ [2]外部 [3]内部 [4]経営 [5]実績記録 [6]注意喚起 [7]問題解決
[8]会計情報 [9]収益 [10]利益 [11]外部 [12]内部 [13]利益 [14]業績評価 [15]意思決定

第2講

[1]材料 [2]労務 [3]経 [4]直接 [5]間接 [6]直接材料 [7]直接労務 [8]直接経
[9]間接材料 [10]間接労務 [11]間接経 [12]目標値 [13]標準 [14]実績 [15]原価計
算基準 [16]効果 [17]売上原価 [18]予算 [19]簡略 [20]迅速 [21]1 [22]単位
[23]合計 [24]物量 [25]頑張れば達成可能 [26]現実的 [27]理想 [28]正常 [29]
現実的 [30]直接材料費(DM) [31]直接労務費(DL) [32]製造間接費(OH)

第3講

[1]標準 [2]実際 [3]有利 [4]不利 [5]価格 [6]数量 [7]図示 [8]賃率 [9]作業時
間 [10]同じ [11]単価 [12]数量 [13]積 [14]今後の経営 [15]費用対効果 [16]例外
管理 [17]管理可能 [18]管理不能 [19]今後の経営 [20]設定

第4講

[1]操業度 [2]原価態様 [3]変動 [4]固定 [5]準変動 [6]準固定 [7]比例 [8]変化
[9]変化 [10]反比例 [11]異なる [12]正常操業圏 [13]単純化 [14]固変分解 [15]変
動 [16]固定 [17]直接 [18]間接 [19]限界利益(貢献利益) [20]認められていない
[21]損益分岐点(BEP) [22]損益分岐点 [23]CVP [24]売上高 [25]活動量 [26]高
さ [27]面積 [28]損失(赤字) [29]利益(黒字) [30]限界利益率

第5講

[1]変動費中心型 [2]低く [3]低い [4]ロー・リスク、ロー・リターン [5]固定費中心型
[6]高く [7]高い [8]ハイ・リスク、ハイ・リターン [9]値下げ競争 [10]固定費 [11]小さく
[12]大きい [13]小さく [14]大きい [15]1 [16]損益分岐点 [17]切り上げる [18]四捨
五入

第6講

[1]将来の行動 [2]1 [3]経営環境 [4]中途 [5]計画 [6]統制 [7]事前 [8]期中 [9]
事後 [10]総合予算 [11]時間 [12]余裕 [13]非対称性 [14]少なく [15]多く [16]機
会主義的行動 [17]上限 [18]節約 [19]期末 [20]断絶 [21]多面的評価 [22]前年度
比 [23]白紙 [24]財務面 [25]多面的評価 [26]使わなければよい

第7講

[1]責任 [2]権限 [3]委譲 [4]責任会計 [5]原価 [6]費用 [7]収益 [8]利益 [9]投
資 [10]デュポン [11]事業部 [12]製品 [13]支配 [14]株式 [15]グループ [16]連結
[17]権限委譲 [18]純粋持株会社 [19]完全 [20]内部取引 [21]内部振替価格 [22]事
業部 [23]事業部管理可能 [24]売上高 [25]利益 [26]投資額 [27]利益 [28]抑制
[29]投資効率 [30]利益額 [31]資本コスト率 [32]WACC [33]EVA